

平成31（令和元）年度 近畿大学原子炉等利用共同研究実施状況

近畿大学原子炉等利用共同研究は、低出力原子炉の特長を活かしたユニークな研究も多く、また使いやすい原子炉構造のため、広範囲かつ多様な研究に使われ、長年活用されてきました。また、わが国においては、東京電力福島第一原子力発電所事故後も、原子力人材育成の重要性が認識され、それに資する原子力教育の実行が求められています。日本の大学が所有する原子炉は京都大学の2基と近畿大学原子炉（以下、近大炉）のみです。近大炉の果たすべき役割は大きいと思います。この共同利用研究を通じて、原子力・放射線分野の研究進展に寄与するとともに、これに携わる大学院生を含めた研究者・技術者等の人材育成に資することができますと幸いです。

平成31（令和元）年度の共同利用研究は以下のとおりに実施されました。

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. 原子炉物理・原子炉応用に関する研究 | 16件 |
| 2. 原子炉化学・放射化学に関する研究 | 2件 |
| 3. 生物の放射線影響に関する研究 | 3件 |

上記の利用実績は、利用日数：58日、原子炉運転時間：327.78hr、出力量：203.06W・hr、来所延人数（旅費支給者）：144人でした。

昨年度は、6月初旬に原子炉出力を微調整する役割の制御棒（調整棒）の駆動用モータに不具合が発見され、これ以降の原子炉運転利用を取りやめました。原子炉が運転できない状況で、利用者にはご不便とご迷惑をおかけしました。不具合のあった調整棒の駆動用モータは、「設工認」を経て更新し、使用前検査を受けて合格しました。その後、原子炉は平成31年3月に施設定期検査を受検し、平成31年4月に合格証を得ました。

平成31（令和元）年度において原子炉は運転にかかわるような大きなトラブルはなく利用を行うことができました。研究計画が遂行されたのは、共同研究者の熱意と関係各位のご協力の賜と心より感謝申し上げます。

今後とも、原子力の研究活性化のため、共同利用施設である近畿大学原子炉を有効に利用していただければ幸いです。

これからも関係各位のご支援・ご協力をお願い申し上げます。